

すべての学びは模倣から

村尾 玲美（国際言語文化研究科）

スポーツにしても音楽にしても語学にしても、何かを学ぶには、

- 1) お手本にたくさんふれる：頻度
- 2) お手本のように（またはそれ以上に）なりたいと憧れる：憧憬
- 3) お手本をマネしてみる：模倣
- 4) 体得するまで何度も繰り返して練習する：手続き化（自動化）
- 5) 「能力貯金」を自由に使えるようになる：創造性（独創性）

というステップを踏むと考えます。憧れの対象の模倣を繰り返し行うことで、いつの間にか模倣ではなく、自分自身の能力を自由自在に操れるようになっていくと気付くとき、それは大きな喜びにつながります。

私は幼いころからスズキ・メソッドでバイオリンを習ってきたので、楽器の練習と英語学習のアナロジーを用いてもう少しこの話をしたいと思います。スズキ・メソッドの生みの親である鈴木鎮一先生は、赤ちゃんが周りの大人の話す言葉を繰り返し聞いて真似することで、いつの間にか母語を獲得していることに着目し、これを音楽だけでなく、さまざまな学びにとって重要な要素だと考えられました。具体的にバイオリンと英語を例にとって5つの学習ステップについても一度考えてみましょう。

1) スズキ・メソッドでは楽譜を見る前に、曲の音源や、先生や他の生徒の演奏を何回も何回も聞いて耳でメロディを覚えてしまいます。メロディだけでなく、お手本の弾き方（音楽的ニュアンス）や息遣いまで身体に染み込むぐらい何度も聞きます。あらかじめたくさん聞いておくと、いざ楽譜を見た時にどうやって音楽を再現したらよいかのイメージがすでに出来上がっています。「百聞は一見に如かず」という諺もありますが、「百聞あってこその一見」なのです。

私は英語学習にはもっぱら TED を利用しています。TED では各言語の字幕も出せますし、書き起こしたテキストを読むこともできますが、まずは何も見ずに何回も聞くようにしています。スマートフォンの TED アプリで、通勤中に気に入ったスピーチを何度も繰り返し聞くようにし、何度聞いても分からない部分が明らかになった時点で、字幕か書き起こしたテキストを見るようにします。何回も聞いた後だからこそ、テキストを見たときに発見と理解があるのです。

2) お手本とする音源は、自分の好きな演奏家のものがよいです。ヤッシャ・ハイフェッツのバイオリンは何度聴いても溜息がでるほど素晴らしく、「いい曲だなあ、かつこいいなあ、

自分もあんな風に弾けたらなあ」と、ひたすら憧憬の念を抱きます。また、名演奏家でなくとも、年上の生徒が弾くバイオリンを聞いていつも羨ましく思っていました。

TED ではスピーチのジャンルや内容から興味のあるものを選ぶのはもちろんですが、私の場合、美人でかっこいい女性のスピーチを好んで聞いています。アジア系の女性のパワフルなスピーチにも憧れます。グローバルに活躍する女性のモデルがたくさん見つかり、スピーチを聞き終わった後には拍手喝采したいような気持ちになることもあります。

3) 4) 憧れの演奏をたくさん聞いてイメージを膨らませた後は、実際に自分で楽器を持って弾き方を真似してみます。お手本の音源に合わせて一緒に弾こうとすると、まずは単純に、速さについて行けないでしょう。テンポどおり弾けるようにするには、指が手続き化（自動化）するまで繰り返し部分練習をする必要があります。手続き化するというのは、つまり、その部分（パッセージ）を身体に染み込ませて覚えてしまうことです。スズキ・メソッドでは、暗譜を大事にします。音楽に限った話ではないため、良いものを身体で覚えるための訓練として、スズキ・メソッドでは小林一茶の俳句百選を暗唱します。暗譜・暗唱してしまうことで、そのフレーズをいつでもどこでもスムーズに取り出せるようにしておくのです。

英語も同じです。テキストを見ながら同時に読んだり、シャドーイングしたりしようとしても、始めはスピードについていけません。楽器同様、英語も部分練習が必要です。フレーズを何度も口に出して流暢に言えるようにすることで、表現が口からついて出るまで覚えてしまう必要があります。スピーチの場合、全てを暗唱するのは難しいので、表現単位で覚えていくのがいいと思います。真似して覚える表現は、耳に残る部分や、「なるほどそう言うのか」と思える部分でよいと思います。歌の歌詞の場合、メロディに乗せて覚えることができるので、暗唱は比較的簡単です。私は昔、The Beatles の Ticket to ride という曲に出てくる“*She ought to think twice, she ought to do right by me*”という歌詞がなかなかリズムどおりに歌えず、何度も繰り返し練習した覚えがあります。スピーチや歌詞以外にも、好きな映画のセリフを真似して覚えるというのもよいと思います。母語の場合、ジブリ作品のセリフを言い方まで覚えている人はかなり多いのではないのでしょうか。私自身、「風の谷のナウシカ」のセリフは冒頭から最後まで全てそっくりに言えるのではないかとこのほど覚えています。好きなものは覚えやすいので、好きな英語のスピーチや映画や歌やオーディオブックを見つけるとよいでしょう。

5) せっかく楽器が弾けるようになって、とっさに何か弾いてと言われた時に、楽譜が無くしては何も弾けないというのは悲しいと思います。スズキ・メソッドでは曲を暗譜して体得してしまうので、楽譜を見ずに弾ける曲のレパートリーがいくつもあります。鈴木鎮一先生は、曲のレパートリーや演奏手法をたくさん持っていることを「能力貯金」と比喻されることがあります。能力貯金があるからこそ、新たな曲に取り組む際に、音楽的な感やセンスを

動員することができます。

英語に関しても、「能力貯金」が無ければ、テキストを音読することはできても、とっさに言いたいことが言えないということになります。表現のレパートリーや、部分と部分をつなぐ骨子となる文法という能力貯金があるかどうかによって、言葉を新たに創造していけるかどうかが決まってきます。

創造的に演奏したり、話せるようになるためには、音階構造の理解や文法構造の理解も必要です。音階や指の基礎練習を行うための教則本もありますが、スズキ・メソッドではあくまでも曲との関連の中で、その曲を弾くのに必要な音階や奏法の訓練を行います。英語学習でも、近頃では文法を個別に教えるのではなく、文脈との関連の中で意味を重視した訓練が必要だと考えられており、「フォーカス・オン・フォーム」という学習法として知られています。

最後に、大学生の英語学習手段として私が TED を薦めたい最大の理由は、TED のスピーチから「人の心を動かす言葉の力」について学べるからです。TED はニュースのような客観的な情報ではなく、一人の生身の人間が考えたこと(Ideas worth spreading)を世界中に広める手段であり、スピーチを聞いた観客に行動や考え方の変化をもたらすほどの言葉の力を持っています。武力ではなく、言葉の力で人を動かすこと、これこそが言語の本質だと思います。いきなり長いスピーチを聞くのはしんどいという場合、6分未満、12分未満、18分未満、という長さでトピックを検索することもできますので、試してみてください。6分未満のものであれば、McKenna Pope の“Want to be an activist? Start with your toys.”もお薦めです。話し手は14歳の女の子ですが、大人顔負けのスピーチで、13歳の自分がどうやって大企業を動かしたか、について熱く語っています。こんなスピーチができる14歳が果たして日本にいるだろうか、世界のこんな子供たちを相手に、日本人は言葉の力で勝つことができるだろうか、という焦りを覚えます。もうひとつお薦めしたいのは、Amy Cuddy の“Your body language shapes who you are.”という21分のスピーチです。はじめは自信が持てなくても、理想の自分を演じ続けて成り切ることで、いつの間にか本物になっている：Fake it till you make it, fake it till you become it、というセリフが印象的です。言葉（英語）の力で世界を動かしていく、そんな理想的な姿を模倣しつつ、いつか本物になれるよう、みなさんを応援しています。

参考図書・URL

鈴木鎮一『愛に生きるー才能は生まれつきではないー』講談社現代新書, 1966, 225p., ISBN 4-06-115486-9.

鈴木鎮一（著）才能教育研究会広報委員会文献史料部会（編）『音にいのち在りー鈴木鎮一の教育センス』才能教育研究会, 2009, 130p.

TED Ideas worth spreading. <http://www.ted.com/>